

2016年9月19日

## 札チャレラジオ通信 第36回

林：三角山放送をお聞きの皆さん、こんにちは。1月から始めました札チャレラジオ通信です。私は、今日のパーソナリティ NPO 法人札幌チャレンジド講習グループの林です。よろしくお願いします。この札チャレラジオ通信は、自立を目指す障害のある人が、IT でマザル、ハタラク、拓き合う社会をつくりたいとの思いで活動している NPO 法人、札幌チャレンジドが、毎週月曜日のこの時間に札幌チャレンジドの活動内容をお伝えする番組です。2016年1年間放送してます。今日は、就労グループのリーダーの佐藤美貴さんと番組を進めて行きます。美貴さんよろしくお願いします。

佐藤：はい、よろしくお願いします。

林：今日は就労グループで働いているお二人をゲストに召んで、働くをテーマに話をしたいなと思っています。

佐藤：はい、じゃあ私から。

林：お願いします。

佐藤：はい、紹介します。今日は私たちと同じく就労グループの福本さんと星さんがゲストです。お二人よろしくお願いします。

福本：よろしくお願いします。

星：よろしくお願いします。

佐藤：早速紹介とかした方がいい？それとも何かどういう感じで行きますか。

林：じゃあ皆さん最近というか、この3連休は、どんな感じでしたか。

佐藤：あ、そういう質問からですか。ですって。どうお？

福本：福本です、よろしくお願いします。3連休はなんだかんだ毎日外出していて。中でも17日の土曜日に大通りで歩行者天国みたいな所があって、そこで May.J さんの無料ライ

ブを見に行ってきました。

星：すごい、来てたんですね。

福本：はい、たくさん、世代も幅広く、男女も幅広く来てたので。途中でちょっと雨に降られちゃって。雨の中でいろいろ聴けて。それでも楽しく 30 分過ごせました。

林：充実してますね。

星：すごいアクティブ。

佐藤：もう何か紹介してないのに、中身がちょこっと出てきてるんですけど。星さんは、どうですか。

星：ええと、私は家ではこの土曜、日曜日と今日の午前中までは、ただひたすら家でダラダラをしていました。

佐藤：休みだから。

星：スマホをいじってゲームやったりとか。そうですね、自由気ままに時間を過ごしておりました。

佐藤：え、私も。

林：じゃあ、美貴さん。

佐藤：私は、写真展を今週から、木曜日から、あ違う金曜日からグループ展を富士フィルムフォトサロンでやるんですけど、その宣伝を。皆さん了承してくださりしてしまいました。1 週間やっているの、よかったら来てください。

林：その準備みたいなものをしてたんですか。

佐藤：今日は、●額装してました。はいちょっと汗臭かったらごめんなさい。林さんは、何をしてたんですか。

林：はい、ぼくは家でゴロゴロしてましたけど。今日敬老の日ということで、実はお祖父ち

ちゃんを連れて母と兄が千葉の方の親戚の所に行ったりとかするので。それで1週間ほどいないので、自由にしてました。

佐藤：じゃあ、お留守番係。

林：お留守番ですね、はいその通りです。

佐藤：お疲れさまです。もうすでにゲストの名前出しちゃいましたけど、あらためて自己紹介を福本さんからお願いしてもいいですか。

福本：はい、福本です。ぼくは2015年の6月から札チャレで働いています。何かここで他言うんですかね、ここで。

佐藤：やあいいよ、べつに。

福本：このくらいでいいですか。はい、よろしくお願いします。

林：星さん。

星：ラジオのお聞きの皆さん、こんにちは。今年の5月から就労グループで働かせていただいております。星と言います。私の障害のことについてちょっとお話ししたいと思うんですけども。腎機能障害と言いまして、腎臓の機能が著しく低下しております。その関係で週に3回人工透析をしながら札チャレの方で働かせていただいているという形ですね。

佐藤：はい、ありがとうございます。

林：お二人が札チャレと関わることになるまでの経緯みたいなものを少しちょっとお聞きしてもよろしいですか。

福本：はい、ぼくなんですけどちょっとさかのぼって、ちょうど2年くらい前の2014年の秋にまあぼくの障害を簡単にいうと突発性難聴という耳の病気なんですけど。まあそれが落ち着いて体調回復してきて、さあ働こうってなった時に、●電気札っていうホームページがあるんですけどそこでいろいろ検索したら札幌チャレンジという名前を知って。そこからホームページ行きましたと、札チャレの。そしたらあまりのデザインの良さに一目ぼれしたんですね。それでここだと思って、仕事を募集している募集していないよく分からなかったんですけど、とりあえずハローワークに行ってここで働きたいんですけどっていうふ

うにハローワークで相談したところじゃあ今体験ならオーケーだよってことで、2014年の12月に体験に行きました。でその時に美貴さんにお世話になったんですけど1日体験していろいろ話し合いして、保留って扱いになったんですね。

佐藤：保留、はい。

福本：でその後ちょっと別な所で働いて半年後の2015年の5月なんですけどもう1回札幌チャレンジドで働いてみたいと思って、勇気を出して面接をしてもらいに行って、その時の面接が林さんが担当してくれて。そこで本格的に5日間体験しましてってことで体験してめでたく仕事に6月から就いたっていう流れになります。

佐藤：その保留したのはもっと他も見なかったという感じだったんですか。

福本：そのときは単純にあまり未だちゃんとパソコンで仕事をするってことにたいして十分勉強してなかったって。自分の不勉強なところがあったんですね。なのでふっと付いていけるっていう不安の方があったので、それで保留って形で取らせてもらって別なA型になるんですけどもそこで働いていて、そこでちょっと長続きがしなかったのだからちゃんと長く働きたいっていうのが前提にあって、将来しっかりした所で働きたいなと思ったんですね。それでもう1回新しく履歴書とか職務経歴書作り直してで札幌チャレンジドにもう1回お願いしますと行きました。

佐藤：ああ、なるほどそういうことだったんですね、うんうん。

林：じゃあ、星さんお願いします。

星：はい、ええと私は前職を体調不良とか精神的な不安の面で退職をしまして、それで3年間くらい自宅療養をしておりました。それで自分の中で精神的にも落ち着いてきたということで、お仕事を探そうかなっていうことになった時にインターネットを使ってお仕事を探していたんですけども、就労継続支援っていうそういう事業というのがあっていうことを最初知らなかったんですね。で調べていくうちにいろいろ就労継続支援事業ですとか、就労継続にもAとかBとかあるということを知って、その中で自分にはたしてどれが自分にとって合うのだろうっていうのを知りえる情報がなかなか得られなかったんですよ。それでいろいろ検索していくうちに、札幌チャレのホームページに辿り着きまして。それで札幌チャレラジオ通信のアーカイブを聴けるじゃないですか、それで何か珍しい取り組みをしているなってすごく思ったんですね。

林：ラジオ通信がすごく役に立ちましたね。

星：それで実際に聞いてみるとその活動の内容であったりとかそのなんていうんでしょう、札チャレの理念というかそういうのがすごく伝わってきてそれでちょっと回数忘れたんですけど多分第8回だったと思うんですけど、ゲストで●理恵さんと●大田さんの出演された回、その回が自分の中ですごく印象的でして、お二人の働く意思  
というかそういうのにも自分の中で感銘をすごく受けて。どうしても働いている方の実際の声とかが聞けるっていう機会ってなかなかないじゃないですか。それですごく興味を持って、それでぜひ見学をさせていただきたいなと思ったのがきっかけだったんですよ。

佐藤：すごい熱かったもん。電話来た時ね。実際に見学とか、面接とか体験してもらったんですけどその最初に持ってるイメージと実際の札チャレは何かギャップとかどうでした。何課良いギャップとか悪いギャップあったと思うんですけど、どうでしたかお二人。

福本：ああ、良いところは皆さん基本的な礼儀ができてるっていうこと。挨拶したら返してくれるし、無駄話はしないし。だからまず仕事に集中しやすいっていう環境は抜群に良いと思います。

佐藤：ああ、そうでしたか。

福本：ただ一方でやってる仕事はものすごく難しい。なので最初そこにどうやって付いていったらいいんだろうっていうのが一杯一杯でした。

佐藤：ああ、そうだったんですね、うんうん。星さんは。

星：そうですね福本さん、さっきおっしゃったように最初見学させていただいた時に、すごく皆さんお仕事されている様子を見た時にものすごく集中してやってるなっていうのがすごく感じたんですね。それで自分が実際に働かせていただいて、いざお仕事をさせていただくと福本さんさっきおっしゃっていたんですけどやっぱりものすごくお仕事に集中できる環境なんですよ。それが札チャレのものすごい魅力、大きな魅力の一つだと思うんですよ。働く環境ですか、はい。

佐藤：何か嬉しいですよ。

林：いったんここでリクエスト曲の方を行った方がいいですね。

佐藤：いきなりの切り替えですね。

林：そしたらすみませんいったん前半はここまでにして、福本さんからのリクエスト曲紹介  
いただいてもよろしいですか。

福本：大黒摩季さんの虹ヲコエテっていう曲なんですけれども、なんでこの曲を選んだか  
って言うと皆悩みあったりとか言っ気がある時もない時もこれ聞いたらとりあえず気持ちが  
何かふわっと前に進めるような気がするっていうそういう曲を選びました。

林：ありがとうございます。そしたら大黒摩季さんで虹ヲコエテお願いします。

林：はい、それでは札チャレラジオ通信後半の方に入っていきたいと思います。引き続き美  
貴さん福本さん星さんよろしくをお願いします。

佐藤：よろしくをお願いします。

福本：よろしくをお願いします。

星：よろしくをお願いします。

林：じゃあ先ほどの質問にちょっと引き続いてなんですけれども、お二人とも目に見えない  
というか障害っていう形になると思うんですがそういったことでの苦労みたいなのかって  
あたりしますか。どうですか。

福本：はい、ぼくの場合突発性難聴っていうのでいわゆる起きてから寝るまでずうっと左耳  
がキーンっていう耳鳴りが鳴ってる状態なんです。なので基本的に会話は右からしてもら  
うっていうまあそこだけ気を付けてもらうっていうのがあるんですけども、それって本  
当に目に見えないんですよ。一応左の聴力がちょっと落ちている分を右耳が補ってくれ  
てるんですよ。ですけどそういう目に見えない障害とかで逆に耳の方が疲れちゃうとち  
よっと体調も疲れてしまうっていうこともありますね。

林：なるほどね、星さんは。

星：そうですね私もまあ福本さんと障害は違うんですけども、腎機能障害ということで内部疾患に当たるんですけども、よく言われるのですがね外見とか性格的なものもあると思うんですけど全然そういう障害に見えないねってよくすごく言われまして。それで透析自体がなかなか世の中に認知されていないっていう部分もありましてやっぱり実は透析をしてるんですよねみたいな感じで言ってもなかなかそれすら分かってもらえない場合が多いんですね。なのでその辺をなんていうんでしょう自分の障害を相手にどうやったら上手く伝わるのかなとかその辺がちょっとやっぱり大変というか苦労する部分でもありますね。

林：すみません、ちょっとこんなところであれなんですけど、その透析ってぼくちょっとあんまりよく分かってないところがあるんですけど。透析の大変さっていうのは、どんな感じとかってありますか。

星：ええとですねまず一つ透析なさっている方皆さんの課題というか大きな問題だと思うんですけども、やっぱり透析を病院で受ける時間ですね。平均だいたい4時間くらい個々の症状によって透析の時間っていうのはもちろん変わるんですけども、平均にだいたい4時間くらいって言われてるんですね。で私の場合は5時間透析しているんですけども、どうしてもその間病院で透析を受けるので時間拘束されてしまうんですね。なので働いてらっしゃる方ももちろん多いんですけども、当然その職場の方に時間的な考慮をしていただかないと透析の治療に入るってことがとても難しいっていうのと。後どうしても自己疾患なので機能していない腎臓を透析することで一時的に補うものがあるのでそうですね自己管理が求められるんですね。どうしても水分管理ですとか、栄養面の管理ですとかそれがやっぱりそうですね大変な部分ですね。

林：ありがとうございます。

星：いえいえ。

林：ちょっとまあいろいろ大変なことがあるってことで二人とも何かそれでも二人とも札幌チャレンジドでさっきも長く働きたいとか、働くってことに対してはすごく前向きに取り組んでくれてるなっていう風にぼくなんかは美貴さんから見ても多分そうだと思うんですけども、すごく感じる場所があるんですよね。先ほどここに来るまで、でもいろいろちょっとあっち行ったりで大変だったみたいなところで。そういったところで、すごくぼくがここで一番ここでお二人に聞きたいなと思っていたのが、働き続けることとかそういったその働くことに対するその姿勢みたいなところの気持ちのところ。どうしてそんなに一生懸命働けるのかなみたいな、自分何か一生懸命働いてないみたいな言い方なんですけど。

佐藤：働いてますよ。

林：働きたいと思います。それちょっと置いておいて、お二人のその頑張れるところの気持ちのところを少しちょっとお聞かせしてもらいたいなと思うんですけど、福本さんどうですか。

福本：はい、ええとぼくは最初体験来た時にパソコンで仕事していくのにちょっと覚悟がなかったみたいな話したと思うんですけども。逆に2回目の体験来た時はその覚悟を決めたんですね。なので何があってもどんな仕事か来てもとりあえず一生懸命向かおうって、そこは決めて実際パソコンはそんなできる方じゃなくて、全部タイピングを昔習ったことがあって、そのタイピングの速さで全部補ってきたんですね。それで実際仕事やってみて最初は全然できてなかったんですけども、続けてくことで少しずつ自信が付くようになってきて、最近になってようやく自分ちゃんと働けてるなってそういうところに辿り着いたんですけど。それでもなおぼくかってに毎月目標とか決めてるんですけども、それが達成できるようにってことで謙虚な気持ちも忘れずにかつ、仕事に対する熱さも忘れずにみたいなことは気を付けています。

佐藤：すごい。

林：目標を立てるとかね、やっぱり大切だなって思うんですね。じゃあちょっと星さん、どうでしょうか。

星：うん、そうですね働き続けることの大切さ。まあ、福本さんと重複してしまう部分があるんですけどもやっぱり仕事に対する思いというか情熱というかそういうのは大切にしたいなっていうのはすごく思っていて。で、私の場合は透析をしていてまあ腎不全ですね障害に敗れたくないっていう思いが根底にありまして、仕事ができない時間に拘束されるから仕事まあ星さんできなくても仕方ないよねってそういう風に思われるのが嫌というかそういう思いがやっぱり根底にあるので。まあもちろんぼくも不得意なことが多くて普段お仕事をさせていただいてる中で凹んだりとかああできなかったな落ち込むことの方が多いんですけども。でも目の前にあることを一つ一つ頑張ってクライアントさんから頂いているお仕事を確実にこなすというか一生懸命頑張るしかないっていうのが今の段階で。それを積み重ねていくことで自分の可能性というかそういうのに広がっていくのかなっていうそういう思いですね。

林：ありがとうございます。やっぱり目の前にある物をまず一生懸命やってそれを続けていくことがすごい大切なんだなっていう風には思うんですね。ええとその中でお二人がこれ



からどういう方向にいかどういことしたいみたいなこととかって何かこうありますか。こうざっくばらんに、目標というか何かそういうのってありますか。

星：ええとそうですね以前ラジオ通信のある回を聞いて大田さんのお話を聞いてちょっと感銘を受けたってさっきお話ししたんですけど。で大田さんが今後何か目標みたいなものありますかって、その時に他からお仕事を頂くのももちろん一生懸命やりますけれども、札チャレで何かお仕事をしてそれを発信していけたら良いなっていうのをおっしゃっていたんですね。それにほくもすごく共感してまして、夢というかそういうプロジェクトに携われたらいいなっていう思いはすごくあります。

林：ありがとうございます。

佐藤：ありがとうございます。

林：まあ音楽が鳴ってきてるので、今日はこれで時間がきてしまったんですけどもそうですねお二人ともここで話してみてどうでしたか。

星：すごく緊張しました。自分で何か何をしゃべっているのかよく分からなくなるようなこと。

林：福本さんどうでした。


福本：ぼくはすごく今のこの時間楽しんでるのでもうちょっと何かしゃべれたらなって思っています。

佐藤：すごい

林：素晴らしい。じゃあ、第2回目みたいなんですね。

佐藤：そうですね、未だ12月までありますからね。そうですねやっぱりあらためて就労グループの一人一人が札チャレの顔として頑張ってるのが、今日伝わったんじゃないかなと思います。で今回のお二人のように前向きに働くことを大事にしている仲間を札チャレでは募集してますね、林さん。

林：はい。



佐藤：もし興味のある方はまずは電話ですか。

林：そうですねお電話番号は札幌 011-769-0843 の方ですね。こちらの方に一度お電話いただければと思います。それではこの辺のところで今日の札チャレラジオ通信を終わりにします。皆さんお付き合いいただきましてありがとうございました。

星：ありがとうございました。

福本：ありがとうございました。

佐藤：ありがとうございました。